

CENTER NEWS NO.270 2009. 1



協同組合 関西地盤環境研究センター

表紙説明

当センター所長の中山 義久です。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

<今月号の写真コメント>

今月号は当センターの進めている増築棟建設工事の進捗状況を挙げました。

写真上段は、先日1月15日に挙行された地鎮祭の記念写真です。安全な施工を祈念致しました。

写真下段は、増築棟基礎とセンター移転前に建っていた倉庫基礎の位置関係を確認するための掘削作業状況です。この確認作業により重複部分の除去範囲を最小限に出来ます。

目次

年頭の挨拶	高村 勝年	1
12月定例理事会		3
12月主な会議・会合・行事		4
12月受注・完了(月別・推移)計画対比グラフ		5
組合員技術者紹介コーナー(第57回)		
ー ここは地の果て? アルジェリアー	藤本 哲生	6
技術者交流会に参加して	林 あい	7
ー CUT AND PASTE ー		7
守口移転物語		
第3回 摂津事務所内のボーリング調査		8
『お知らせとお願い(駐車場が狭くなります)』		9
編集後記		10
お知らせ		10

年頭の挨拶



協同組合 関西地盤環境研究センター
理事長 高村 勝年

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

日本経済は、昨年米国発の金融危機から急速に世界的な景気後退に見舞われ、金融派生商品にとどまらず、株価暴落等で实体经济にも影響が及び、深刻な不況に直面しております。

トヨタやソニー等の大企業での生産調整が強化され、派遣労働者の解雇や正社員の希望退職など人員削減のうねりが止まらなくなっており、今後個人消費も落ち込んで行くであろうし、今年一杯は不況が続くのではないのでしょうか。

政府は景気対策として色々な施策を提唱し審議しておりますが、ねじれ国会と財源不足の為に決定されず、前進いたしません。景気回復の機動力は公共工事だと思います。私としましては、減税等の間接的援助よりも、公共事業の増大等の直接的な支援を強く熱望しております。

私達の業界も、受注の減少から資金繰りを極端に悪化させ、廃業や倒産する企業も出てきております。厳しい経営環境下ですが、ここはお互いが踏ん張って「乏しきを分かち合って」耐えていくことが大切だと思います。企業も経営陣と社員が団結し、多少給料が下がっても分かち合う事が出来ればこの不況は乗り切れると思います。プラス思考で物事を積極的に好転させて、今年「良い変化」がたくさん起こる一年に、と願います。

組合の状況ですが、受注高については例年の80%程度に落ちこんでおりますが、完成高では前年度からの引継ぎ試験がかなり有りましたので、黒字と成っております。しかし、今の様な受注状態が続きますと5月の総会では厳しい決算報告をも覚悟しなければなりません。

組合の運営方針は協同組合ビジョン2005を基本としておりますが、受注高の減少は営業部門を持たない組合にとって致命的です。仕事量が多い時は、暗黙の内に組合と組合員がお互いの領域を侵害することなく、役割を分担して事業を進めることにより安定した経営形態を維持してきましたが、量的減少と単価圧縮の環境下では、組合外部への流失が組合経営にマイナスとなっております。

受注減と組合員減が予想される中、組合として存続していく為には、組合と組合員との相互依存としての役割分担を認識させ、受注確保に向けた運営方針の変更が必要だと強く感じており、施策を検討しているところです。

協同組合は、地盤や環境の試験・分析を適確な人的資源のもと、近代化さ

れた設備や、I S Oで品質確保されているデータを提供できる試験センターです。

この組合の存在及び利用価値を、役・職員と顧問の西田・藤田先生のお力添えを頂き、業界だけでなく学会や一般社会にも積極的にアピールしていき、半公的機関と認知されるように育て、受注に繋げて行きたいと考えております。

次に守口試験室の移転に伴う摂津事務所の増築工事ですが、1月15日に地鎮祭を行い、続いて本格的な工事に取りかかり、5月20日頃完成の予定です。工事期間中は駐車場が使えません。組合訪問や試料の搬入等の際にご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますがご協力をお願い申し上げます。

また、当組合は平成22年に創立30周年を迎えます。あまり大掛かりな行事は出来ませんが、30年という節目の年ですので、式典、祝賀会、記念誌発行等は執り行なう方向で準備をしております。

年頭にあたり組合員各位の益々のご発展と皆様方のご多幸を祈念いたしますとともに、本年も格段のお力添えをいただけますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

[追記1]

組合員会社と組合の経営を好転させてくれそうな情報を、建通新聞紙上で見つけたので追記しました。特に②③は伸び悩んでいる環境部門の受注増加に繋がるプラス材料で有る事を期待しております。

- ① 官庁の発注方法が変更される：低入札防止の為に、最低価格の引き上げや事前公表の取りやめ、総合評価の配分比率が変わります。
- ② 通常国会に土壤汚染対策法の改正法案提出：一定規模以上の形質変更を行なおうとする者への土壤汚染調査の義務づけを柱とする。
- ③ 2011年3月期から企業会計基準の国際化が適用される：企業の工場敷地内に土壤汚染、地下水汚染、アスベストや有害化学物質の有無を正確に把握し、資産価値を評価する。汚染等がある場合には、その処理費用を資産除去債務(環境債務)として計上する。

[追記2]

協同組合ビジョン2005の作成の背景には下記の精神が生かされております。

協同組合設立3つの意図

- ① 共同施設への集約により企業の経営効率を改善する。
- ② 地質調査業界の近代化と結束のシンボルとする。
- ③ 地質調査業界を広く社会へアピールする施設とする。

組合員技術者紹介コーナー（第 57 回）

－ここは地の果て？アルジェリア－



株式会社 建設企画コンサルタント
大阪事業本部 技術部 地盤グループ
藤本 哲生(ふじもと てつお)

会社の大先輩である岡島さんのバトンを受けまして、拙い文章を書かせて頂きます。まずは、私のプロフィールを簡単に。生年月日は、1978年10月6日で、とうとう30才になりました。出身地は、お城だけが有名な兵庫県姫路市で、高校を卒業後、山口大学、大学院で6年間の学生生活を過ごしました。現在は、会社に入社して6年目の若手？技術者ですが、その間、道路、河川、鉄道、宅地、空港、トンネル等、様々な分野の地盤調査、解析、設計業務に従事しています。また、2008年10月からは、山口大学大学院博士課程に在籍し、セメント安定処理土の力学特性に関する研究をしています。

さて、私の紹介はこれくらいにして、何を書いてもOKとのことですので、2007年10月から2008年1月までの3ヶ月間、業務で訪れたアルジェリアについて少し紹介させていただきます。

アルジェリアは、アフリカ大陸の最北端に位置している石油等の地下資源に恵まれた国です。私が滞在したアンナバは、チュニジア国境から西方約80kmの地中海に面する都市です。関西空港からは、パリとアルジェで飛行機を乗り継いでようやく到着することができます。「アフリカ」と聞くと、熱くて砂漠ばかりというイメージが強いかもしれませんが、アンナバは、地中海性の穏やかな気候で、フランス植民地時代の建築物が多く残る大変綺麗な所です。

現地の方は、イスラム教の影響からか、男性は髭をたくわえ、女性は髪をベールで覆っています。また、たいていの方がアラビア語とフランス語の二ヶ国語を話すことができるらしく、道路看板の表記も二ヶ国語表記になっています。したがって、英語がほとんど通じませんので、何をするにも言葉の問題がありました。業務に関する事は、通訳の方をお願いして翻訳して頂いたのですが、それ以外(特に、買い物の際は、辞書で調べたり、絵を描いたり、最終的には必殺！ボディランゲージ！！等、様々な方法で店員さんに欲しい物を伝えます。それでも通じないので、店員さんやお客さんが集まって、みんなでワイワイと話を聞いてくれます。最終的に問題が解決したときは、みんなでワーっと喜んで、握手して・・・本当に親切な人ばかりでした。

その他、自動小銃を持った軍隊に囲まれて現場に行ったこと等、紹介したいことは尽きませんが、ページの都合もありますので、このあたりでアルジェリアの紹介を終わらせて頂きます。

最後に、私が次にバトンを渡す方の紹介です。紹介させて頂く方は、大学の同級生であるサンコーコンサルタント株式会社の南幸孝さんです。昨今の世の中は、暗い話が多いですが、ぜひ、明るい話題提供をお願い致します！

(平成20年12月25日 原稿受理)

技術者交流会に参加して

株式会社 タニガキ建工
林 あい

先日、センター主催の技術者交流会に参加させていただきました。私はこのような交流会に参加したことがなかったため、緊張を抱えて当日足を運びました。

今回のテーマが「私のこだわり」で、業務に関する話題が広がるのかと思っていましたが、趣味や日頃の時間の過ごし方などのお話をする方が多かったため、思っていたよりも和やかな場でとても有意義な時間を過ごさせていただきました。

交流会から懇親会までみなさんのお話からは、食べ物やスポーツにこだわりを持った方が多く、日常生活の中でうまく時間を利用して趣味やこだわりを楽しんでいることがうかがえました。

特にスポーツのお話に関してはとても楽しく聞かせていただき、特別趣味といったものがない私ですが、何かやってみようかという気分になりました。生活の中にこのような趣味の時間を持つことは気分転換にもなり、これによってまた仕事の活力につながっているんだと感じました。

今回のような交流会は、いろいろな方と出会う場になり、また、普段お話しすることのない方々からの意見を聞くこともできるため、とてもよい機会になったと思います。

最後になりましたが、このような場を企画してくださいました関係者の方々にお礼申し上げます。機会があればまた参加させていただきたいと思います。

－ CUT AND PASTE －

某所長の財布です。ご馳走になりました。
有難うございます



守口試験室移転物語

第3回 摂津事務所内のボーリング調査

前回までに守口試験室が移転するに至った経緯を説明しました。今回は摂津事務所内に新たに試験室を新築するにあたり、ボーリング調査を実施しましたのでその結果を報告いたします。

摂津事務所は図-1に示すように、淀川と安威川の2つの河川に挟まれた三角州性低地に分類される沖積平野に位置しております。

図-2は今回の新築工事のために行ったボーリング調査の柱状図です。同図から分かるように、GL-0.00m~1.70m;盛土、1.70m~3.55m;粘性土、3.55m~5.00m;砂質土、5.00m~16.30m;粘性土、16.30m~21.00m;砂質土、21.00m~22.50m;粘性土、22.50m以深レキ層となっています。標準貫入試験結果で特徴的なことは、GL-5.00m付近~12m付近までN=0と軟弱な粘性土が堆積していることです。なお、調査時期の地下水位はGL-1.05mでした。このような地盤に総床面積約600m²、2階建の試験室を新築するにあたり、検討した土質調査・室内試験について、次回で説明いたします。

ボーリング柱状図

調査位置案内図



縮尺 1:25,000

○ 調査場

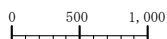


図-1 摂津事務所の位置

調査名 関西地盤環境研究センター増築に伴う地質調査

ボーリングNo.		調査位置		北緯		東経	
No. 1		大阪府摂津市東新町1-3-2		34° 46' 14.00"		135° 33' 45.94"	
発注機関		協賛組合 関西地盤環境研究センター		調査期間		20年 4月 14日 ~ 20年 4月 17日	
調査者名		主任技師 堀尾 宣治		調査員		新井 勉人 田中 浩一 新井 勉人	
ボーリング機		ハンマー		測定機		自動計下	
ボーリング管		100mmφ		使用液		水	
総掘進長さ		22.50m		エンジン		NFS300-8	
				ポンプ		6P-5	

深さ (m)	土質	地層名	標準貫入試験結果 (N)	地下水位 (m)	備考
0.00	盛土	盛土	0	-1.05	
1.70	粘性土	粘性土	0	-1.05	
3.55	粘性土	粘性土	0	-1.05	
5.00	砂質土	砂質土	0	-1.05	
16.30	粘性土	粘性土	0	-1.05	
21.00	砂質土	砂質土	0	-1.05	
22.50	粘性土	粘性土	0	-1.05	
22.50	レキ層	レキ層	0	-1.05	

図-2 摂津事務所の地盤柱状図

編集後記

みなさま、明けましておめでとうございます。

昨年末から年頭にかけては、経済危機・事業縮小・雇用問題などの暗い話題ばかりが目につきました。

先行きの不安から、社会全体が萎縮してしまっていて、みんなでじっと耐えているような構図になっているような気がします。個人の方ではどうしようもないような状態になってきていますが、それにつられて、自分の気持ちまで萎縮してしまいそうです。「病は気から」なんていいます。このままでは健康にもよくありませんので、何か目標を立て、今年は少しがんばってみようと思っています。

さて、今年初めてのセンターニュースをお届けしていますが、組合のホームページの方でも、センターニュースとともにみなさまに役に立つ各種情報を発信しています。定期的にご覧いただけたら幸いです。

今年もセンターニュースをよろしくお願い致します。

「協同組合HP <http://www.ks-dositu.or.jp/>」

(日野 記)

お知らせ

☆組合員事務所移転

アース技研株式会社が平成21年1月10日付けで下記へ移転されました。

新住所 〒665-0821

兵庫県宝塚市安倉北3丁目9-3

TEL 0797-87-6900(代) FAX 0797-87-6902